

念があるために、長期で支援してくれる人(団体)をすべて一括させていたのだという形です。コンタクトをとった方には「いつまでいるの?」って先に聞くのが私の癖でした。長期で支援してくだされば、メニューがかち合わないよう活動していただく感じです。みえボラさんがほっとサポートセンターに入る時に、きつとサポーターの方から私の所に行った方がいいよって言われて私の所に来て、それからのご縁なんですよ、きつと。

### ↳信頼と安心

**山本**…今回お話を聞く中で1つのテーマは、よそ者がいかに地域の方と一緒に生きるきっかけを作っていたのか。やはり信頼関係も出来なければボランティア活動も出来ないですし、「あんた誰?」というところから始まっているはずですよ。その「あんた誰?」が、「あーみえさんね」って言うてもらえるまでに一体なにがあったのか。是非みなさんどんな出来事があったのか、どういうふうに思ってたのかが言っていたらいいな。

**鈴木**…現地スタッフにいい人があれば別に地域関係なくいいんじゃないですかね。

**川端**…みえの人たちが来るたびに言うんです。「自分たちの住んでいる所の景色は驚くほど山田町に似てるんです。津波がきたら…自分たちも他人事じゃないんです」「見に来てください。本当に山田と同じですよ」って。そういう思いで皆さんが来て下さったのだと思います。ボランティアもいろいろな人が来しました。みえ災害ボランティア支援センターという組織がバックにあったので、安心して手伝って頂くことが出来ました。

**阿部**…ボランティアを悪く言いたくないのですが、これは伝えなきゃいけないというケースがいっぱいありました。警察



川端京子さん

沙汰になるような事、流浪的な方で食べ物求めてくる方もいました。ただ、活動していただくという意志の部分は強いのですが、受け手になる住人の方にちょっと迷惑がかかるんじゃないかなと。中間的な私たちの立場って微妙じゃないですか。何かしたい、お手伝いしたいです、ありがとうって始まるんですけども、いや要らないですとも言えないですし、歯がゆい。

**松崎**…ちゃんと募って来ているということは、川端さんが言ったように信じられそうなのは頼むって言うことが出来るけど、やっぱり「ん?」って思うところはわかる。震災後いろいろな人が来て、何か悪い事をしようとしてきた人結構いましたよね。

**山本**…今回ボランティアとして来てこの人ほんと大丈夫かなとか悪いことを考えているかなというのは具体的にどんなことでしょうか。実際にあったかどうかではなくて、そういう疑いの目を持つとすれば、どういう疑いがあったか。例えば個人宅の片付けを手伝う、そこで盗難があるとかそういう心配…なんですかね。

**阿部**…私が直接見たわけではないのですが、川端先生もおっしゃったようにボランティア自体があんまり浸透してなかった時、「なんでお手伝いされているんだろ?」って方が他にもいたと思うんです。そうすると何かしら話があり、何かお礼をしなきゃいけないという人がいたという話があり、その中でお金を請求したと。そういう報告を受けてその人たちがこの誰かって調べたのですが結局は見つからない。そういうのが1個でもあると、やはり気を締めていかなきゃいけないんです。そういうところで、疑心暗鬼になるところもありましたので、それを防げなかったという反省点もあるんです。

**松崎**…山田の人だけかもしれないけど、行政が入ると安心すると言いますね。仮設の集会所・談話室の利用申し込みの窓口を一本化したのはそういうこともあるんです。そうしないと色んな人やボランティアが来たとき区長さんが何もわか

らないで受けて、商売を談話室・集会所の中でやられるというのもありえます。窓口を利用してちょっと怪しいなと思ったとき、こちらがサポートするという感じですね。

### ↳信頼するための要素

**山本**…色んな所からボランティアが来る中でどうやって信頼関係を作るのかというところが難しいし大事なところ。いかに信頼してもらおうのかという所をちょっと配慮するときとコミュニケーションの仕方が違ってくるのかなと。その場合どういう部分があれば受け入れやすかったのか、それぞれで思っているところがあればまた是非聞かせて頂きたいです。色んな団体さんを思い浮かべて頂いて、あそこは信頼しやすかったな、あれがあるから信頼しやすかったな。そういったキーになったような要素ってというのは何ですかね?

**鈴木**…スタッフの方ですね。

**松崎**…みえさんの場合はね、最初きたときはハテナってクエスチョンがついていた。知らなかったから。それでも地元の人たちが雇われているというから、ああ大丈夫かなというのがあります。

**山本**…なるほど。最初は…言葉は悪いですけど警戒しとかないかね。トラブルが起こってからは遅いですがからね。そこは乗り越える何かがあるんです。最初のスタッフの印象って大きいですか?第一印象。

**松崎**…その人を見ますね、それぞれの判断力ね。勘という人相とかね。

**山本**…人相ですか。あんまりノウハウになっていないな。人相いい人を先遣で選んでくださいって。(笑)

**阿部**…みえの方々の紹介ということ、すつと入って。やっぱり知名度って大きいですね。例えば、みえボラさんの繋がりがあってなると多分壁がひとつクリアする。あとは実際に会って先ほどお話をされたように、会って肌が合うか合わないか



松崎由美子さん

# 座談会 ③ 被災地とボランティアの信頼関係 ～山田町とみえボラ～

震災初年度から山田町で活動を続けて来たみえボラ。同じ場所でも継続的に支援する中で、支援する側と受ける側との信頼関係はどのようにして構築されてきたのか。

ボランティア活動に関わってきた山田町の方々にそれぞれの立場で経験・思いを語っていただきました。

## 出席者

阿部寛之さん（山田町社協復興支え愛センター）

松崎由美子さん（復興推進課被災者支援係）

竹内美奈子さん（ほっとサポートセンター山田）

川端京子さん（健康福祉課子育て推進室）

鈴木聖一さん（街かどギャラリー（山田町ゾンタハウス内））

## オブザーバー

川村聡さん（国保介護課介護保健係）

松岡佑美（みえ災害ボランティア支援センター）

## 聞き手

山本康史（みえ災害ボランティア支援センター長）

※順不同（役職は当時のもの）※以後 敬称略

## ～「みえボラ」との出会い～

**山本**…最初みえの名前を聞いた時どんな感じでどんな経緯で、その後、私たちのことを見てくれたのか言って頂けたらと思います。

**阿部**…当時は私たちボランティアの方々はどうやって活動していたかというのがわからない状況だったと思います。そのとき来られた方々がそうだったことでもお手伝いできますよというお話をいただき薬にもする思いで、協力いただけませんかと言ったのがきっかけだったのを覚えてます。期間が長ければ長いほど信頼関係は出来るので頼れる部分も多かったです。ただお帰りになる際にまた新しい方にな

るので信頼関係を作るといふところが入れ替わり立ち代わりだったのを記憶しています

**山本**…そうですね。最初の先遣隊が4月の頭に来て、最初にバスで帰ったのは4月のゴールデンウィークの頃。それまでは先遣隊が3人位ずっと張り付きで入らせていただいたんですね。そこでの入れ替わりで人が変わっちゃうと信頼関係はこれから？

**阿部**…みえボラさんはずっと切れ目なく入って下さったので、何か困ったとき人が足りないときにはすぐお願いできる環境にあったというのが本当に、強みというか有難いことだったと思います。リピーターの方は何回も来ていただいたので、ああまた来てくれたという嬉しいところがあります。



阿部寛之さん

**川端**…私の勤務先だった織笠保育園も避難所になったんです。その頃私たちはボランティアというものがわからず「何でよその人に手伝ってもらうのか？自分たちのことは自分たちでしよう」という思いでした。しかし町職員である織笠保育園の保育士たちは町内の避難所へ、栄養士は町全体の支援へと移ることになり、調理をする人が足りなくなり困っていました。そんな時、みえのボランティアさんたちが来て手伝ってくださいました。調理補助の他に保育園の夏祭りや運動会、発表会にも来てくれましたね。調理補助は毎日2〜3名、行事には10名ぐらいの方々が来てくれました。被災の大きい地域でしたが、みえ隊の皆さんから暖かい気持ちのこもった食事を作っていただき、子どもたちも避難所の皆さんも元気になりました。みえの方たちにはとても感謝しています。

**鈴木**…我々は場所を提供するだけだったんですけど、仮設の人たちに色々な折り鶴とかギターとかを教えていただきました

した。そうなると思えば仮設の人たちは外に出るようになってくる。ああやっぱり良かったなと。ただ残念なのは男の人たちがなかなか出て来なく、どう言ったらいいかってね。皆さんが入れ替わり立ち代わり来て下さって、もうそれを待っている人たちも結構あります。

**川村**…私、ボランティアの皆さんと課として関わるようになったのは4月に国保介護課に異動してきてからということになります。

**山本**…みえに関わらず、例えば仕事をしているなかで、ボランティアってどういうふうに映ってらっしゃいました？

**川村**…まず自分のことを投げ打って来て下さるというのが非常に素晴らしい。きっとボランティアの方々も、自分の生まれた所とか育った所とか関係なく山田に来て色々やっているうちに家族的な気持ちになり、何度も来たくなるのかなと

**竹内**…ほっとサポートセンターは震災の年、9月にスタートしたんですけども、サポートセンターの仕事自体私たちも初めてやることでした。仮設の人たちとのホーム支援を行って下さいといつも何をしてもいいか分からなくて、そこで初めて会ったのがみえさん、連鶴でした。

**山本**…みえだと連鶴で出会いましたが、他に色々な団体があって参考にしようなところがありましたか？ほっとサポートをするうえで。

**竹内**…そうですね。あとは繋がりの中で「この人知ってるよ」といって紹介していただいて、そこで「こういうのが出来ます」という声をかけていただき、それを私たちも習いながらその場でやってみよう形をとりました最初は。

**松崎**…ほっとサポートセンターの取りまとめ役が私だったので、仮設に入る方の不審者…申し訳ないのですがそういう懸



竹内美奈子さん